

2 事業概要

(1) 総括事項

本年度は、給水戸数、給水人口ともに微増となりました。また、料金収入となる年間有収水量は、前年度より減少しました。これは、少子高齢化やライフスタイルの変化、節水型製品の普及による影響があると考えられます。

事業収入は、平成26年度に新会計基準への移行による一時的な増加があったため、本年度は大幅な減少となりました。経常的な事業収入では、料金収入は減少、給水申込納付金は増加となりました。事業支出では、修繕費等が増加しましたが、人件費や動力費の削減に努め、事業収支については純利益となりました。

施設改良費については、水道施設整備を推進するため、幸田配水場電気計装設備更新工事として 119,127,040円、幸田配水場機械設備更新工事として 71,600,000円を執行し、また導・配水管の布設替工事等を実施しました。

(2) 業務の状況

本年度の年間給水量は 7,794,665 m^3 で、前年度に比べ 97,976 m^3 の増加となりました。

有収水量は 7,249,842 m^3 で、前年度に比べ 42,861 m^3 の減少となり、有収率につきましては、前年度に比べ1.74ポイント減の93.01%となりました。

また、北千葉広域水道企業団からの受水量は 3,689,741 m^3 で、総給水量に占める割合は 47.34%となりました。

事 項	平成27年度	平成26年度	前年度との差
給水戸数（戸）	38,965	38,512	453
給水人口（人）	78,879	78,398	481
年間給水量（ m^3 ）	7,794,665	7,696,689	97,976
1日最大給水量（ m^3 ）	24,333	24,176	157
有収水量（ m^3 ）	7,249,842	7,292,703	△ 42,861
有収率（％）	93.01	94.75	△ 1.74
北千葉広域水道企業団からの受水量（ m^3 ） （給水量に占める割合％）	3,689,741 (47.34)	3,533,575 (45.91)	156,166 (1.43)

(3) 経理の状況

収益的収支については、事業収益 1,612,732,933円に対し、事業費用が 1,541,404,543円で差引き 71,328,390円の純利益となりました。

収支の内訳は、事業収益では、営業収益 1,287,597,851円、営業外収益 325,135,082円で、主なものとしては、給水収益 1,187,222,770円、長期前受金戻入 206,036,578円などです。

事業費用では、営業費用 1,456,927,387円、営業外費用 84,477,156円で、主なものとしては、減価償却費 523,471,342円、受水費 331,051,610円、企業債支払利息 83,757,095円などとなっています。

資本的収支については、収入額 20,966,200円に対し、支出額は、658,770,927円となり、収入額の内訳は、他会計負担金 17,629,000円、水源費負担金 3,337,200円です。また、支出額の主なものは、施設改良費 481,731,153円、企業債償還金 173,938,307円などとなっています。

収入額が支出額に不足する額 637,804,727円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 37,799,361円、過年度分損益勘定留保資金 600,005,366円で補てんしました。

(単位：円)

		平成27年度	平成26年度
収益的 収支	事業収益	1,612,732,933	1,986,287,819
	事業費用	1,541,404,543	1,532,298,741
	純利益	71,328,390	453,989,078
資本的 収支	収入	20,966,200	31,164,452
	支出	658,770,927	495,764,654
	不足額	637,804,727	464,600,202

(4) 老朽管更新事業

【事業の目的】

- 耐震性の向上を図り、給水を安定させる。
- 漏水を防止し、維持管理費の節減を図る。
- 安全で良質な水を供給する。

【事業の経緯と現況】

本事業は、計画的に老朽管の布設替工事を実施すると同時に他事業の水道管移設や切廻し依頼による布設替工事も実施するものです。平成27年度においては、1339.70mの布設替工事を実施しました。